

星とたんぽぽ 金子みすゞ

青いお空の底心かく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。散つてすがれたたんぽぽの、
瓦のすきにだアまつて、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼に見えぬ。見えぬけれどもあるんだよ。
見えぬものでもあるんだよ。

「星とたんぽぽ」の詩は、みすゞさんの詩の中でとても有名な詩です。

みすゞさんは、眼には見えないけれども大切なものがあることを、昼間の星、たんぽぽの根っこに例えて、私たちにメッセージを送ってくれています。

昼間の星は、昼間は周りが明るいので目には見えませんが、確かにあります。

昼間の光が明るいので、星からの光が見えないのです。

たんぽぽの根はとても長く、地下に伸びています。冬、葉っぱは寒さや風から守っていてぺったんこになっていて枯れているように見えますが、根っこをしっかりとっているのです、何度でも立ち上がるのです。

根っこは地下にあるので見ることはできませんが、それもまた確かにあります。

幼児期は《人生の根っこ》であると言います。

その見えない根っこの部分に、しっかりと栄養を蓄えることが大切です。

嬉しいことから、悲しいことから、栄養をもらって心の根っこを広げることが大切です。

この1年、子どもたち、そして皆さんはどんな栄養を心の根っこに蓄えたでしょうか…

心の根っこが育っている子どもたちは成長していきます。私たちおとなもまた子どもたちと同じように成長したでしょうか…

成長もまた、目に見える成長と見えない成長があります。

目に見えることだけを信じるのではなく、見えない部分も、心の目で見ることができるよう、私たちの「心の目」を養い続けたいと思います。

本園が大切にしたい心の一つである金子みすゞさん。

2024年度は毎月一つずつ詩を紹介してきました。

今年度最後に「星とたんぽぽ」の詩を紹介しました。

終わりに、目には見えませんが、確かにおられて、私たちを守り導いてくださる神さまが、これからもいつもどんな時も一緒に歩んでくださることを心に覚えていてください。

